

## 欧州の研究プロジェクト CVIS がヘッセン州内で協調型システムの実地試験を披露

掲載日	2010年5月6日
国名	ドイツ
分類番号	ITS
出典	ヘッセン州道路・交通局
タイトル	Europäisches Forschungsprojekt CVIS präsentiert kooperative Systeme live im Testfeld Hessen

欧州の車両－インフラ間協調型システム研究プロジェクト CVIS(Cooperative Vehicle Infrastructure Systems)に提携しているドイツの業者・機関が、4年の研究期間を経て、今日、ヘッセン州アウトバーン A5 号線のフランクフルト西 JCT～ツェッペリンハイム IC 間で、開発されたコンポーネントの実演を行った。ヘッセン州道路・交通局、ソフトウェア開発会社の PTV 社、MAT.TRAFFIC 社とダイムラー社は、将来、車両とインフラ間の情報交換を最大限に機能させると期待されるコンポーネントの数々を開発した。同プロジェクトは EU の支援の下で進められ、ベルギー、フランス、イギリス、イタリア、オランダ、スウェーデンといった国々から、実に多様な分野の 60 を越すパートナーが参加した。これらのシステムにより、交通流および交通安全の改善と、環境負荷の低減を目指している。CVIS のパートナーは、プロジェクトの最終イベントとして、交通量の多いアウトバーン A5 号線上の約 10km の区間と、ヘッセン州道路交通局の最新技術研究・試験センターである「ヘッセン DRIVE センター」で、新システムを試験車と試験区間内の交通管理設備に取り付け、その機能と効果を披露した。CVIS のシステムが搭載された車両が実演走行する間、参観者は、車両間または車両とインフラ間の通信の様子を、その目で確認できた。

ヘッセン州内の試験場としては、重交通路線のアウトバーン A5 号線と、最新技術を用い理想的な環境を再現できるヘッセン州交通管制センターの2箇所で検証する。A5 号線およびその周辺で記録された交通データは、CVIS プロジェクトの研究の基盤として活用された。この路測データと、新型の通信装置を搭載した車両データ情報を融合させることにより、将来的には交通データの集積拡大が可能かもしれない。これはより効率的な交通管理・管制の基盤作りにつながる。しかしハードウェア、ソフトウェアの両面での更なる開発と実証が必要である。

### CVIS について

CVIS は、車と車 (V2V)、車と道路 (V2I) を通信技術により協調支援する技術開発プロジェクトであり、共通で使える通信のプラットフォーム、及び、それを活用したアプリケーションの開発を目的としている。対象とするのは、車を通信によってつないで付加価値を向上させる高度協調システムである。

CVIS プロジェクトは、2006 年から 2010 年までの期間で、欧州連合の支援のもとに進められている。この国際プロジェクトのコーディネーターは、ヨーロッパの ITS 推進のための官民連携組織 ERTICO-ITS Europe である。